国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

マクロコズム 2004.7

◎特集　第16回「世界青年の船」事業

vol. 59

(財)青少年国際交流推進センター

Challenge to Change

〔1/21〕日本（横浜）～インド（ムンバイ）～タンザニア（ダルエスサラーム）～セーシェル（ヴィクトリア）～日本（横浜）〔3/3〕

「世界青年の船」は、オセアニア及び北・中南米方面と南西アジア・アフリカ等方面を隔年で訪問しています。第16回は、後者のコースでした。外国青年は、1月13日に来日して日本でのプログラムを体験した後、出発前研修で日本青年と合流しました。1月21日、「にっぽん丸」は、日本と訪問地である3か国を含む13か国の青年約300名を乗せて横浜港を出航し、3月3日に、横浜港に外国青年も含めて到着し無事終了しました。今年の特色は、船内プログラムに社会活動セッションを組み入れて、参加青年が社会活動についての発表及び意見交換を行ったこと、そして大きな変化は、外国青年が船上プログラムに全日程を参加するようになったことでした。

歓迎式典にて◀

（インド）

▲ ムンバイエイズ防止協会にて

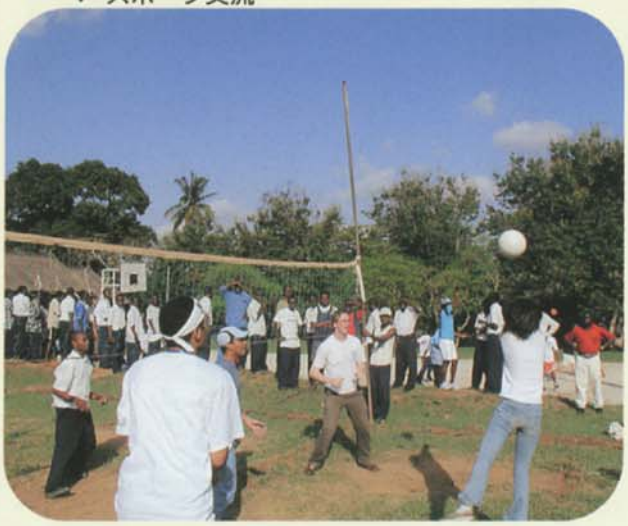
◀ マハラシュトラ州首相表敬訪問

寄港地活動

（タンザニア）

▲ 副大統領表敬訪問

▼ スポーツ交流



（セーシェル）

ヴィクトリア市長表敬訪問 ▶

▲ バ・ボロンでの植樹

地元の青年との交流 ▶

船内活動

▲ 社会活動に関するセッションでファシリテーター役を務めたアドバイザーのJohn Edward Rucynski氏

社会活動に関するセッションでの発表の様子 ▶

ディスカッションの様子 ◀

▼ ナショナル・プレゼンテーション（ロシア）

▲ ナショナル・プレゼンテーション（エジプト）

◀ エキシビション・デイ

ODA50年
～開発援助の原点を考える～

メコンウオッチ事務局長　松本　悟

東南アジアとの関わり

おはようございます。今、御紹介いただいきましたが、私は20年前の1984年に「東南アジア青年の船」に乗りました。1984年は、まだインドシナ難民がタイにたくさんいた時代で、「東南アジア青年の船」でも、カンボジア人がいたカオイダンの難民キャンプを訪れたりしました。そういう時代の中で、私自身、まさに山田理事長のお話にあったような、格差とか、理不尽なものを20代に感じたのが、そもそもの原点だと思います。

その後NHKに入り、地方の支局で警察回りから始めました。当時のソビエト極東地方の担当をしたものの、あまり東南アジアと縁がありませんでした。結婚を機にNHKを辞め、当時妻が開発NGOのスタッフだったので、一緒に東南アジアの小さな国ラオスに行き、4年半ほど現地で暮らしながら草の根の農村開発をやってきました。その時の経験をもとに論文をまとめるためシドニー大学に行き、そこで2年かけて英文で250ページ程の論文にして日本に帰ってきて、今NGOをやっています。その活動として、政府開発援助（ODA）にも関わり、例えばJICA（旧国際協力事業団、現在の国際協力機構）の環境社会配慮政策を策定する委員会に過去2年間委員として参加したり、円借款でやるODAを担当している国際協力銀行の環境社会配慮

主な内容

青少年国際理解セミナー「ODA50年」
～開発援助の原点を考える～…… 5～9
IYEO 20周年記念事業……10～13
関東ブロック東京大会／
福岡県IYEO「大島ツアー」
オーケストラが派遣にもたらした効果……14
第1回SSEAYP30周年同窓会……15
お知らせ……16～20
全国大会／国際教養講座／
21世紀ルネッサンス事業参加青年募集

〈表紙の説明〉

第16回「世界青年の船」
タンザニアにて

の政策にも関わったりしてきました。現在、財務省の国際局長主宰の開発金融に関する研究会に、企業や大学の先生と一緒に入っています。主に発展途上国の債務問題について、財務省幹部にざっくばらんな意見や提言をするような場です。そうした政府のプロセスに関わりつつも、NGOの視点で、東南アジアのメコン河流域国の開発問題にずっと携わっています。今日は、そういう諸々のことを含めて政府開発援助（ODA）をどう考えるかというお話をさせていただきたいと思います。

ODA の現在と3つの特徴

ODAの50年と書きましたが、まだ新聞でも出てきていないと思いますが、今年の半ば頃になるとこの標語が新聞を賑わすと思います。国際協力の日が10月6日ですが、今年の10月6日がまさにODA50周年になります。外務省を始め様々なイベントを今考えているようですので、すぐに、50年とは何だったのかという話をあちこちで耳にすると思います。今日はそのイントロで、そう言えばフライング気味に半年位前に松本が話したなという話が、10月頃にマスコミに出てくるかと思います。

どの位皆さんが ODA のことを御存知かわからないので、まずいくつか質問します。ODA には一応定義があり、その定義となる 3 つの特徴があります。何でしょうか？答えは ODA ということばに隠されています。O は official、政府がやることであること。D は development、開発が目的であること。若干似たような公的機関で日本輸出入銀行が昔ありましたが、そこは途上国を支援しても、目的は開発ではなく日本企業の支援です。日本企業の海外進出を助けるのが目的ならば、ODA ではありません。ODA はあくまでも発展途上国の開発が目的です。3 つ目の A（assistant）が何を表しているかと言うと、民間が市場金利で貸すお金より優遇されているということです。専門用語ではグラントエレメンツと言います。どの位有利か、マル優かと言うことが、アシスタントにつながるのです。タダでお金をあげるのが 100% のグラントエレメンツのアシスタントです。例えば市場金利よりも少し低いだけでは、場合によってはアシスタントにならないことがあります。3 つの特徴は、政府がやることである、開発が目的である、市場のお金を借りるよりとても有利である、ということです。それが ODA です。

さて2000年度に日本が最大援助国だった国は世界にいくつあるでしょう？　どの位の国にとって日本がトップドナーなのか。現在54か国で日本がトップドナーです。日本にとってはODAの0.1%しか出していない国でも、その国にとっては日本がトップドナーということです。ODAを考える時、よくこのギャップが出てきます。日本にとって、普通の人は名前も知らないような国でも、その国にとって日本は最もODAを出してくれる国ということです。このギャップが時として色々な摩擦を生みます。

さて 2002 年度 ODA 事業予算はいくらでしょう？　事業規模だと今 1 兆 2 千億円です。ODA は全部税金だと思っている人もいるかもしれませんが、現実には郵貯、年金の運用等のお金が ODA に使われています。税金なら返ってこなくてよくても、皆さんの郵貯や年金の基金を運用しているので、実際には返ってこないと困るわけで

す。それが日本の援助の借款＝ローンという仕組みともつながります。1兆2千億円、事業規模だと一人1万円程です。「東南アジア青年の船」に乗った私としては、どうしてもASEANということになりますが、ASEANがどの位を占めているか？　私も結構ASEANは多いだろうと思っていたら、今28%です。思ったよりも多くありません。

日本はよくインフラが中心だと言われますが、経済インフラ、経済サービスが占める割合は何%でしょう？　この辺の分類が面倒で、例えば灌漑、上下水道も本当はインフラなので、それらも含みたいのですが統計上含まれていないので、とりあえず経済インフラとして、道路、公安、水力発電所等のサービスが占める割合は何%位でしょうか？　35%です。明らかにこの率は少しずつ減っています。ただ灌漑、上下水道等本当はインフラに分類されるものも入れると、確かに半分程にはなります。

さて、最後です。日本のODAの特徴は借款が多いことですが、事業規模で1兆2千億円、一般会計予算で8千億円から9千億円というのが最近の日本のODAですが、2001年に返してもらったODAはどの位でしょうか？　3千5百億円です。実はこの年のODAは、返ってきたお金を使った方が多いのです。改めて予算措置をしたのは3千2百億円。返ってきたお金をもう一度使ったのが3千5百億円。ですから実は途上国政府が返してくれるお金でODAを回す時代になってきたのがODA50年の一つの特徴だと思います。

ODAのスタート地点にあったもの
～1950年代から60年代～

ここで50年小史に入っていきますが、まず1950年代から60年代を見ていこうと思います。1950年以前も実はとても大切で、1945年に第二次世界大戦が終わり、荒廃したヨーロッパ、日本、アジアの復興をアメリカが中心になって考え、48年頃からソビエト、中国の台頭による冷戦の始まりが見える頃で、アメリカは社会主義化を恐れることもあり、復興を急ぎました。1950年コロンボプランが立ち上がります。当時英連邦、特に南アジア、ビルマ等旧英連邦の国々の復興をイギリスが中心になって考えたプランです。開発援助のスタートだとよく言われます。1954年10月、日本はコロンボプランに加盟し、外務省はこれをもって日本のODAの始まりとしています。本年2004年の10月6日、日本がコロンボプランに加わって50年になります。

途上国援助50年小史（50～60年代）

1950年 1月	コロンボ・プラン発足
1950年 12月	日本輸出銀行設立
1953年 10月	世界銀行から第1回借款
1954年 10月	コロンボ・プラン加盟
1954年 11月	日本・ビルマ平和条約、賠償・経済協力協定（賠償第1号）
1958年 2月	円借款開始（対インド）
1961年 3月	海外経済協力基金（OECF）設立
1962年 6月	海外技術協力事業団（OTCA）設立
1965年 4月	青年海外協力隊発足
1969年	一般無償資金協力開始

一方、1948年に日本はエロワ資金のような復興資金をアメリカからもらい、給食サービス等を受けました。日本は援助国の仲間入りをしたとはいえ、一方で1953年10月に世界銀行から第1回借款をしたように、被援助国でした。日本は復興のための支援をもらいつつ、54年に援助国の仲間入りをしました。1950年12月に日本輸出銀行ができます。1952年に輸出入銀行に変わりますが、実は日本は援助より先に、企業の海外投資、進出を考えました。ASEANとか東南アジア、あるいは東アジア等は第二次世界大戦時日本が迷惑をかけた国、武力で侵略した国です。1950年はまだサンフランシスコ講和条約が結ばれていない、日本が戦争の当事国と講和を結んでいない状態でした。日本としては東アジア、東南アジアは行きにくかったのです。1950年頃は、特に南アジア、インドやスリランカ等の国々と今後貿易をしよう、協力していこうということで日本輸出銀行ができました。この頃は統計を見ても圧倒的に南アジアとの関係が強い時期です。

1951年にサンフランシスコ講和条約で日本が独立を回復すると、かつて日本が戦争した国と賠償の交渉が始まります。1954年11月、日本ビルマ平和条約賠償経済協力協定が結ばれます。賠償の第一号がビルマ、現在のミャンマーです。アメリカは日本に社会主義国になって欲しくなかったため、重い賠償を求めて日本が社会主義化することに恐れを抱き、賠償を全部放棄する方向で話をまとめていましたが、アジアの国々が納得しなかった。結局賠償を行使する、あるいは援助を行う方向になります。

日本のODAスタート地点は戦後賠償でした。1954年対ビルマの賠償は1,193億円、フィリピン1,901億円、インドネシア803億円、南ベトナム140億円、韓国1,020億円。現在のODAの一般会計予算が8千億とか9千億で世界一位だ二位だと言っているのに、その日本が1954年戦後10年経たない時に賠償だけでこれだけのお金を工面しなくてはなりませんでした。どうしたかというと100%紐付きでやりました。お金をあげるのではなく、プロジェクトを支援し、それに関わる企業、コンサルタントは全て日本企業を使うというのが紐付です。これだけ高額の賠償を支払っても日本のためになる、日本企業が立ち直るために海外に投資し、貿易をするためにお金を使うのだと政府は言えました。

海外援助事業の発掘を手がけた日本工営の初代社長久保田豊氏は、当時自前のお金で海外を飛び回りました。彼は伝説的な人で、太平洋戦争中に朝鮮半島で水力発電開発を進め、ダムの神様と呼ばれていました。ビルマの第一号案件はバルーチャン水力発電所で、その後ビルマ国内の電気の8割を賄うことになりました。こういうやり方に対し現在批判的な声が多いです。援助の原点にあるのは賠償と、それを利用した日本経済の立て直しであることは間違いありません。その感覚を現在の日本で持つことには抵抗があるが、1954年時点でそれを言わざるをえなかったのはやむをえないということだと思います。

ODAスタート時点にあったのは経済ギャップを埋めることでもなく、貧困解消でもなく、単に賠償とそれを使った日本企業の海外進出支援でした。1958年に円借款というタイプの援助が始められます。この頃は全て紐付で、受注できるのは

日本企業に限られていました。賠償だけで完成しなかったバルーチャン等も円借款に切り替わって事業が続きます。

1961年に海外経済協力基金（OECF）が設立され、翌年技術協力を担うためにOTCA、後のJICAができます。1962年OTCAの開発調査の予算は1億7千万円で、それを使った調査がメコン河開発です。メコン河開発はODAの歴史をたどる時とても大事です。メコン河開発をどう進めようとしたのかを探ることは、日本がどうODAを進めようとしたのかを知ることにつながります。青年海外協力隊が1965年にでき、1969年には賠償に代わり、一般無償資金協力を始め、特に東南アジア、東アジアの国々にお金を出していくことになります。この頃ODAの描いていた青写真を知るためにビデオを観たいと思います。お見せするのは、シェル石油が1963年に作ったフイルムをビデオにしたものです。

ODAに描いた夢

これを観て時代を感じるのではないかと思いますし、そこに書かれているコメントをよく聞いてみると、例えば、自然を制御するために「メコンを鎖で縛り上げる」ということばが非常に肯定的に使われていますし、「人々は水の支配者であるかもしれないが、河の支配者ではない」、つまり明らかにこうした自然を人々はコントロールし、それを発展につなげていこうという明確なメッセージをこの頃は出していたのは明らかです。その是非はともかく、そういう時代であったと言えるかと思います。この50年代、60年代というのは、企業の対外進出、あるいはインフラを中心とした、ある種、夢を描く、あるいはエンジニアの夢みたいなもの、そういうところがODAの世界にあった時代です。参考までにメコンをずっと追いかけている者として言いますと、ここで挙げたサンボール、あるいはパモンといったダムや大規模な灌漑は全て実現していません。このビデオでうたわれた計画の90パーセント以上、殆どは実現されていないのです。

なぜ実現しなかったのか、もちろん実現しなくて良かったと思う部分もありますが、なぜ実現しなかったかというのは、その次を見ていくことでわかると思います。例えば、下流域の人たちが2千万人いると言っていました。このビデオに登場するカンボジアの影絵を見ている子供たちが年をとっていく時には、人口は4千万人になるだろうというコメントがありましたが、実際、その子たちは、50年経っているからいい年になっていると思いますが、現在流域の人口は6千500万人を超えています。予定よりも更に人口が多いわけです。人口は多いが、予定していたプロジェクトは殆ど実現していない。しかし、この地域には飢えはない。確かに最貧困という数字の上では、そういうレッテルは当然貼られるわけですが、未だにここで描かれていた様な生活を少し改善しながら生きていく、というのも事実かと思います。

（以下次号へ続く）

関東ブロック大会を終えて

～今後のあり方を考える～

東京都IYEO会長　國分　由佳

日本青年国際交流機構設立20周年の年に、トップを切って関東ブロック大会が6月26、27日に開催された。テーマはずばり「東京、愛はいいよー！IYEO」。3月にオープンした真新しい東京スポーツ文化館に、100名（内一般17名）が集結。宮城、長野、京都、大阪、福岡からの参加者もいて、まさに「全国大会プレ東京大会」という雰囲気だった。

集合写真をデジタルプリントし、最後にアンケートと交換でプレゼントとしたら、アンケートの回収率も上がり丁寧に記入してもらえた。ほぼ100%の人がこのブロック大会をよかった（5段階評価で4または5）と回答しており、好評であった。今後のブロック大会、全国大会のあり方を示唆する意見をいくつかもらったので紹介したい。

今回、ブロック大会を開催するにあたり、いくつか新しい試みをした。

1）早割制度の導入…早割（早割では2,000円割引を実施）による申込締切日があると「早く申し込んでください」と催促しやすい上、宿泊部屋を早く確定でき非常によかった。特にトラブルもなく、むしろこれをやらなかったらいつまでたっても申込みがなく非常に困ったであろうと思われる。世の流れからして早割は一般的となり、今後他の大会での導入も望まれる。

2）HPによる申込受付…受付名簿作成の簡素化へとつながった。

3）体験型、参加型交流プログラムの導入…従来の講演会のような一方通行の受動的プログラムをやめ、交通費や参加費をかけてくる参加者が体得できる知識やスキルを明確にした体験型・参加型のプログラムを中心とした構成にした。具体的には、初日には過去2年間の東京都IYEOの活動で人気のあったプログラムを再企画し、①「世界がもし100人の村だったら」を体感できるワークショップ②サルサダンス教室③中東和平映画「プロミス」上映の3つから1つ選択してもらった。2日目の朝は、眠気と疲労との闘いを克服するため、頭と体を使ってチーム・ビルディングを学ぶ④コミュニケーションゲームを全体で実施した。

①のワークショップの評価はまずまずで、「実際に体験してみると世界の現実がより理解できた」「日本の置かれている状況が良く分かった」「偏ったバランスの上に、私達は生きているということを改めて知った」「身近にあるのに、見えていない物事がある」といった感想があがった。

②のサルサは大好評で「皆とパートナーチェンジをして踊れたことで、本当に大勢と楽しい交流ができた」「基礎から丁寧に教えてもらえてわかりやすかった」「楽しかった」という感想をもらった。

③の映画上映は、「考えさせる映画、古くて

新しいテーマ、どうしたらいいのだろう」「国際交流が切実に望まれるテーマでとてもためになった」と書かれていた。

④は、4グループに分かれ、それぞれテーマに沿った障害物競走を作るというもの。

「ゲームを通じて人の意見を聞き、何かを伝え一つの作品を作り上げるというのはとてもよかった」「一体感があり大変よかった」「何もないところから物を作るのは楽しい。考えることは重要」との意見があった。

総じて参加型プログラムゆえにコミュニケーションがとりやすかったようだ。

①②④はそれぞれ外部講師を依頼した。それは実行委員の負担を軽減するとともに専門的な知識を参加者に身に付けて欲しかったからだ。しかし、そこから思わぬ展開が広がり、参加者が専門講師から技やノウハウを盗み取り、地元に帰って企画したいという声がいくつもあがった。100人村はワークショップ本を販売したので実践は可能であろう。サルサは交流と異文化体験の両方を満たせる便利なプログラムであり、他県での開催が企画されている。コミュニケーションゲームは青年活動や国際交流活動に導入できそうだ。

「ブロック大会に参加して、情報交換し、地域活動のヒントやアイデア、刺激が得られる→地域の活性化につながる」これこそブロック大会の本来あるべき姿なのではないか。

「いろんな人に会えます」だけでは参加者を増やしていくのは難しく、IYEOは前進できない。今回は一般参加者も多く、外に開かれた大会であった。また、分科会の選択、早割、ツインやシングル等選択肢が多く、参加者のニーズにあっていたように思う。

また、20代後半～30代の参加者も多く、IYEO会員は無関心ではなく、興味のある活動を行えば世代や距離に関係なく参加してくれるということが実証された。

「改めてIYEOがいろいろなキャラクターを持った人たちが同じ視点で交流できる素晴らし

い団体だと実感した」「初めての参加だったが大感動でした。人、パワーがすごい！」「IYEOの皆さんは味があって、人間味にあふれていて、美味しい考え方をなさっていてほんまにいい時間でした」こんな嬉しいコメントをいただいた。

この2日間、多くの笑顔に接し、私自身楽しむことができた。

今後、ブロック大会や全国大会を開催される方々は、ぜひ参加者の視点に立ったプログラム、そしてスタッフ自身が楽しめるプログラムの企画に取り組んでほしい。

国際交流の原点ここにあり

～太古と現代が交差する20周年企画　大島ツアー～

中村　隆子（第7回世界青年の船）

「大島に皆で遊びにおいで」そう、お誘いくださったのは第5回青年の船（昭和46年度）事業参加の先輩で福岡県宗像郡大島村村長の河辺健治さんでした。今年1月、「世界青年の船」外国参加青年の福岡県での地方旅行のホストファミリーになっていただいた頃のことです。

「遊びに行く」…そういえば、報告会などの広報活動や会報発送作業などの集りばかりで、会員間の親睦目的で宿泊を伴う行事は、福岡IYEOでは少なくとも私が入会してからのこの9年間は実施されていませんでした。そこで、「何も考えずにただ皆で遊びに行こう、それも家族で参加できるイベントにしちゃおう！」という軽～いノリで企画したのが、今回の大島ツアーでした。広報は遠足のしおり風に仕上げた御案内を福岡県会員に郵送し、また九州ブロックメーリングリストでも他県からの参加を募った結果、お隣の佐賀県を含む10代から50代の18名から申込みがあり、久々のお泊り企画としてはまずまずの参加数となりました。

5月22日、玄海灘に浮かぶ大島へ渡った私たち

大島上陸！ ▲

一行を、河辺村長はリヤカーで迎えにきてくれました。日中は潮風が吹く海辺で、新鮮な魚介類と霜降の大島牛のバーベキューを堪能し、食後は村長夫人による、採れたてのイカやあじをさばくお料理教室を体験しました。さばいた魚は水道水よりも海水のほうが味がいいから、と村長夫人に教わり海辺へ洗いに行った時は、島の暮らしが環境問題の取り組み方次第で大きな影響を受けるのでは、と気づきました。夜は河辺村長から大島と沖ノ島の歴史の講話をうかがいました。沖ノ島は玄界灘のほぼ中央に浮かぶ周囲4キロの孤島で、古代より大陸・半島と九州・山陰を結ぶ通過点で航路の道標とされてきた神体島で、その歴史は遥か縄文時代にまで遡るそうです。その神体島の「海の正倉院」と呼ばれている古代祭祀遺跡を、何代にもわたり守り続けてきたのが大島の島民だと語る河辺村長に、大島人の誇りを感じました。ただ単に遊びにやってきたつもりの企画が、いつしか我が国の国際交流の始まりを学ぶ研修になっていました。

今年2月の代表者会議にて、「『IYEO20周年記念企画』を各都道府県IYEOにて是非実施を」とお話がありました。その時はそんな大層なことができるのかしら、と心配でした。しかし、ちょっと強引に20周年企画にした私たち福岡県の今回の大島ツアーは、様々なものをもたらしてくれました。こうして世代を超えて集い、より親しくなれたこと、それぞれが参加した事業の話を語ることで自らを振り返ることができたこと、大陸の文化の入り口、日本いにしえの国際交流の起点となった大島や沖ノ島の歴史に触れたこと、現代においては環境問題について改めて考える機会を得たことです。

大事なことは、20周年記念企画の行事の規模や参加人数の多さではなく、「何か」を企画して「集い、語らう」ことに意味があるのだと思います。それが、まずは会員間交流となり、そして今後の国際交流活動の礎になっていくのではないでしょうか。今回の大島ツアーで得たことを今後の活動に様々な形でいかして、第2、3の大島ツアーにつなげていきたいと思います。

大島村ホームページ　http://www.vill.ooshima.fukuoka.jp

▼ 村長に大島・沖ノ島を熱く語っていただきました

▼ さっそく、海辺でバーベキュー

オーケストラが派遣にもたらした思いがけない効果

平成15年度「国際青年育成交流」事業（トルコ派遣団団員）
宮地　秀明

音楽は世界の共通語であると言われることがありますが、みなさんはどう思いますか。私は高校生までは体育会系少年でしたが、大学入学を機に、大学の部活動のオーケストラに入部してヴァイオリンを始めました。4年目を迎えて最終学年となり、最後の夏の演奏会を行うことになりました。

さて、音楽にはその土地ごとの旋律や音階といった独自性があり、厳密には「音楽が世界の共通語である」というのは少し違うのではないかと私は思っていました。実際にトルコで体感した音楽は、中東独特の、私には聞き分けられないくらい細かい音階と独特のリズムを持った未知の音楽でした。しかし、それらの音楽から感じる喜怒哀楽といったものは、トルコ人も日本人も近いものがあるのだとも感じました。歌や楽器の奏でる音楽とその場にいる人々が作り出す雰囲気、そして心を通わせたいという思いが合わさった時、音楽が言葉の壁を乗り越える手助けをしてくれるのだなと実感しました。

大学でのオーケストラの経験が、派遣中の私に、より音楽を楽しませてくれたことは確かです。また、100人を超える音楽部管弦楽団で活動してきた経験が、多くの人々と出会い、集団での行動となる派遣の活動に協調性や責任感、積極性の面でいきたと感じます。皆さんも機会があれば積極的に、歌や楽器演奏に接して欲しいと思います。

▲ 1st ヴァイオリンのメンバー（筆者後列左から5番目）

東京大学音楽部管弦楽団「Summer Concert 2004」

指　　揮：三石　精一（当団終身正指揮者）
エクトル・ベルリオーズ　序曲「ローマの謝肉祭」
ポール・デュカス　　交響詩「魔法使いの弟子」
ヨハネス・ブラームス　交響曲第2番　二長調

東京公演　7月31日（土）19：00開演
文京シビックホール大ホール
福井公演　8月 5日（木）19：00開演
ハーモニーホールふくい大ホール
大阪公演　8月 6日（金）18：30開演
大阪厚生年金会館芸術ホール
岩国公演　8月 8日（日）14：00開演
岩国市民会館大ホール
詳　　細：http://webs.to/todaiorch/
問い合わせ：hideakimiyachi@pop13.odn.ne.jp
皆様のご来場を心よりお待ちしています。

小野田　幸子（旧姓田中）

国境を超えてうたげのまどかなり　戦争を知らぬ子らの睦み合う
過ぎし日のいくさの海を巡り航く　平和の使節『にっぽん丸』

元「にっぽん丸」船長　川島　　裕

1974年10月10日、第1回「東南アジア青年の船」、晴海埠頭より出航。大きな期待を抱き、数々の貴重な経験をさせて頂いてから30年の年月が過ぎました。10周年同窓会以来の同窓会。名簿作りの作業から取り掛り、1年の準備期間を経て、無事6月5日に懐かしい顔が集うことができました。83歳になられたにっぽん丸の川島船長を始め、熟年の管理部のみなさん、そして気分は当時の年齢のままの参加青年。まるで夢のようなひとときでした。参加者からの一言です。

2004年6月5日に第1回「東南アジア青年の船」の30年ぶりの同窓会が東京駅近くのホテルで開かれました。30名のメンバーのうち、北は北海道、南は沖縄から14名が参加。またこの青年の船をお世話下さった総理府やにっぽん丸の関係者など13名が参加下さり、総勢27名の楽しい会となりました。船長さんの乾杯後、当時のビデオを鑑賞しましたが、皆30年前の自分や友の姿に、ざわめき、ため息、笑い声。にっぽん丸船上に戻っていました。その後の各自の近況報告では伝えたい事が一杯で、続きは2次会3次会へと持ち越されました。当時の秘話なども語られ、時が惜しまれる楽しい一日でした。3年後の同窓会を約束し、その日を楽しみに解散しましたが、改めて異文化交流の大切さを再認識した一日でもありました。

〔栄田（福本）鈴子〕

同窓会はタイムマシンです。しかし、30年も隔てると、瞬間で戻れる人と、記憶に「会話」という油をさしながらやっと戻れる人と様々です。今回の第1回「東南アジア青年の船」の同窓会では有難いことに当時の映像を見せてもらい、30年前へとタイムマシンスピードは鮮明な映像とともに速くなり、楽しさと感動の思い出がいっぱい湧きあがってきました。そして改めて「30年前の参加した時の初心」を思い出させて頂きました。今回の30周年記念同窓会の準備と運営をして頂いた皆様に心から感謝申し上げます。

〔湧川　昌秀〕

あれは青年の参集地、バンコックを出航する朝だったかその翌朝だったか。大食堂で私に配られたのは、唐辛子の利いた真っ赤なスープ。日本人の皆さんは香り高い味噌汁とご飯。最終寄港地マニラ湾の夕日もまた真っ赤。にっぽん丸の赤いファンネルは永遠の象徴。総理大臣主催の帰国歓迎会が11月20日。その総理が5日後には辞職。いつの時代もそれなりに劇的ですが、30年前のことは、私にとって、いまだ総天然色です。それでは、次回を楽しみに。

〔赤木　　進（管理部）〕

第20回全国大会 佐賀大会に来てくんしゃい！

大会テーマ（仮）：「佐賀から世界平和～共生の時代へ～」

全国IYEO会員皆様、こんにちは。佐賀県IYEOから、第20回全国大会佐賀大会のお知らせです。IYEOにとって節目とも言える20回目の全国大会。私たち、全国大会佐賀大会実行委員会は、今年11月6日（土）～7日（日）に佐賀で行われる全国大会に向けて、一丸となって準備に取り組んでいる最中です。全国IYEO会員皆様の大会参加を、心よりお待ちしております!! 詳細、お申し込み方法等は、9月号でお知らせします。

期　日：平成16年11月6日（土）～7日（日）
会　場：龍登園　佐賀県佐賀郡大和町大字梅野120
TEL (0952) 62－3111　FAX (0952) 62－5946
ホームページ　http://www.ryutouen.co.jp/

▲ 龍登園　全国大会の会場です

プログラム（案）：

第1日目　11月6日（土）

13:00～	受　付
	開会式
14:00～18:00	講演会、フォーラム、分科会など
18:00～19:00	チェックイン
19:00～21:00	懇親会（アトラクション予定）
	（全国物産展【オークション】予定）

第2日目　11月7日（日）

10:00～	閉会式
	オプショナルツアー
	（インターナショナルバルーンフェスタ、吉野ヶ里歴史公園など）

問合せ先（事務局）：福地峰雄　TEL・FAX（0955）25-0021
E-mail　sagaiyeo@hotmail.com

国際教養講座「太平洋の歴史～民族の出会い」

東大名誉教授で、第3回世界青年の船団長の増田義郎先生に講演をしていただきます。船では流暢なスペイン語で特にラテンアメリカの参加青年たちに人気がありました。

最近、太平洋の常識についての執筆をしていらっしゃる増田先生から貴重なお話を伺います。この機会に回生を超えた交流もできれば大変嬉しく思います。

日　時：8月28日（土）15：00～16：30
場　所：（独）国立オリンピック記念青少年総合センター
　　センター棟103号室（東京都渋谷区代々木神園町）
交　通：新宿駅から小田急線　各駅停車 約3分
　　参宮橋駅　下車　徒歩約7分
　　http://www.nyc.go.jp/
参加費：1,000円
主　催：第3回世界青年の船　Nippon Maru 60s
　　13周年記念実行委員会
申込および問合せ：Nipponmaru60s@aol.com
　　または080－3005－8737（小林）

講演会の後、懇親会を予定しております。詳しくはお問合せください。

〈講師紹介〉

増田　義郎（ますだ　よしお）

1928年東京に生まれる。1950年東京大学文学部卒業。東京大、千葉大、亜細亜大教授を経て、東京大学名誉教授。

専攻：文化人類学、イベリアおよびイベロアメリカ文化史。

ラテンアメリカの民族学的研究の第一人者。

49年から16世紀アメリカ大陸関係スペイン文書の研究をはじめ、以後、中央アンデス、メソアメリカで継続的に文化人類学の調査を行う一方、大航海時代の諸問題を扱うなど、幅広い研究活動を行っている。

著書：『アステカとインカ－黄金帝国の滅亡』（小学館）、『物語ラテン・アメリカの歴史』（中公新書）など多数。

平成16年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）開催日程

ブロック	開催府県	開 催 日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	山形県	10月23日～24日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
北信越	福井県	8月21日～22日	新潟・長野・富山・石川・福井
東海	愛知県	10日23日～24日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	和歌山県	10月 2日～ 3日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	鳥取県	8月21日～22日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	高知県	（11月下旬開催予定）	徳島・香川・愛媛・高知
九州	佐賀県	11月6日～7日（全国大会と同時開催）	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

ヤング・リーダーズ・フォーラム　日本参加青年募集！

Ⅰ 概　　要

① 目　的

21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい事業によって招へいされる「世界青年の船」事業及び「東南アジア青年の船」事業の20か国の外国人既参加青年と共に、専門分野に分かれて討議を行うものである。それぞれの分野における各国の情報を交換すると共に、21世紀の各分野のあり方、青年リーダーとしての役割等を討議し、今後の活動に資すると共に、討議結果を広く発表していく。

② 主　催

内閣府、(財)青少年国際交流推進センター

③ 日本青年の参加期間（ヤング・リーダーズ・フォーラム）

平成16年10月9日（金）から同年10月12日（火）までの3泊4日間

④ 会　場

独立行政法人　国立オリンピック記念青少年総合センター

⑤ 参加者

ア．日本参加青年　20名

イ．外国参加青年　20か国、80名（ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、ミャンマー連邦、シンガポール共和国、フィリピン共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国、バーレーン王国、ケニア共和国、ニュー・ジーランド、ノルウェー王国、ペルー共和国、スペイン、トンガ王国、アラブ首長国連邦、アメリカ合衆国、ベネズエラ・ボリヴァル共和国）

⑥ 日本参加者参加プログラム内容

月　日	日　　程	備　　考
10月8日（金）	招へい外国青年オリエンテーション 「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業開会式（基調講演等） 歓迎レセプション ※ヤング・リーダーズ・フォーラムの日本参加青年は希望に応じて参加可（宿泊は実費を申し受けます）	東京都　4コースに分かれる 開発、教育、マネジメント（NPOの組織・運営等）、パブリック・リレーションズ（広報）
10月9日（土） ～12日（火）	ヤング・リーダーズ・フォーラム オープニング・ランチパーティー、ディスカッション、所外活動等 日本参加青年修了式	東京都　4コースに分かれる 開発、教育、マネジメント（NPOの組織・運営等）、パブリック・リレーションズ（広報）

Ⅱ 募集について

① 日本参加青年の資格要件

日本参加青年の資格要件は次のとおりとする

ア 内閣府（総理府・総務庁）青年国際交流事業の既参加青年であること

イ 25歳から39歳までの者であること（平成15年9月19日時点）

ウ 英語による日常会話以上の能力を有する者であること

エ 協調性に富み、事業の計画に従って規律ある団体行動ができる者であること

オ 日本の社会（例、政治・行政・法曹、経済・商業、科学技術、医療、農業、マス・メディア、教育、社会活動、青少年活動など）で活躍しているリーダー層の青年であること

特に以下の4分野のいずれかを専門としているか、深く興味を持っていること

① 開発、② 教育、③ マネジメント（NPOの組織・運営等）、④ パブリック・リレーションズ（広報）

※ 日本でのプログラムにおいて、この4分野をテーマとしたディスカッション・グループが設けられる予定。外国参加青年はテーマ別に各国1名ずつ供出し4つのグループを構成する。日本参加青年はヤング・リーダーズ・フォーラムで専攻テーマに応じてそれぞれのグループに所属する。

※ 再参加は妨げるものではないが、新しい参加者を優先する。

② 参加費用

(1) 内閣府の負担する経費

プログラム参加費、宿泊及び食事代（3泊4日）

※ 東京都外在住の参加者については規定に基づいた旅費をお支払いします

※ 勤務地が東京の方はこれに該当しません

(2) 日本参加青年の負担する経費

期間中における疾病又は傷害の治療費用、旅行保険、小遣いその他の個人の用に必要な経費

③ 応 募

(1) 提 出 書 類

① 申込書（下記問合せ先よりお取り寄せ下さい）

② 作 文（800～1,000字程度） テーマ：「希望するコースで取り組みたいこと」

(2) 募集締切り 平成16年8月3日（火） 消印有効

(3) 結果のお知らせ 平成16年8月中旬にご連絡します

④ 書類提出先及び問合せ先

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

㈶青少年国際交流推進センター 担当：大橋玲子、本田温子

※封筒に「ヤング・リーダーズ・フォーラム応募用紙在中」と明記すること

Phone: 03－3249－0767 ／ Fax: 03－3639-2436

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業全体日程

10月7日 招へい青年到着、10月8日～13日 東京プログラム、10月14日～17日 地方プログラム

10月18日 会議準備、10月19日 青年賢人会議、10月20日 招へい青年帰国

マクロコズム５月号（P.2）の訂正とお詫び

マクロコズム５月号の２ページ「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」（招へい）の事業報告記事において、障害者施策担当企画担当後藤参事官補佐と高齢者社会対策担当調整担当成田参事官補佐の写真へのキャプションを取り違えて掲載してしまいましたので、深くお詫びを申し上げますとともに、下段のように訂正原稿を掲載させていただきます。

〈行政官による講和〉

▲ 青少年健全育成青少年企画担当
田中参事官補佐

◀ 障害者施策担当企画担当
後藤参事官補佐

高齢社会対策担当調整担当 ▲
成田参事官補佐

編集後記

７月は、「交流の本番が来た。」と実感させてくれる季節です。「国際青年育交流」事業によって世界から招へいされた青年の元気な姿、そして「航空機による派遣」「東南アジア青年の船」の日本青年の研修における熱気は、それまでの苦労を吹き飛ばす力を与えてくれます。

＊本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はＦＡＸにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM（マクロコズム） ７月号 Vol. 59 2004年7月20日発行（隔月発行）

編　集：マクロコズム編集委員会
発　行：財団法人　青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14
TEL 03-3249-0767
FAX 03-3639-2436
e-mail hq@iyeo.or.jp
URL http://www.centerye.org (IYEO)

編集協力：内閣府政策統括官
（共生社会政策担当）
日本青年国際交流機構
定　　価：198円（本体189円）
印 刷 所：株式会社　絢文社
TEL 03-3959-3960

▲ 埼玉県青年国際交流機構
子供プロジェクト（国際理解講座）

▲ 神奈川県青年国際交流機構
「子ども国際ゆめワールド」にブース展示

▲ 富山県青年国際交流機構
帰国報告会＆料理教室

▲ 福井県青友会
「大人のための啓発録」推進フォーラム

▲ 佐賀県青年国際交流機構
「平成16年度内閣府青年国際交流事業」募集説明会

▲ 広島県青年国際交流機構

スローライフへの招待状…。
にっぽん丸がお届けします。

感動を約束する船旅の数々。
南の島への大航海をラインアップした、
素敵なパンフレットを、どうぞご請求ください。

ハダンゲルフィヨルド（ノルウェー）
Photo:Mike Louagie

商船三井客船（MOPAS）は
2004年創業120周年を迎えました。

主催 商船三井客船
〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5F
ボンド保証会員 国土交通大臣登録旅行業第946号／日本旅行業協会正会員

お申し込み お問い合わせ
クルーズデスク（通話無料・オペレーター対応）
フリーダイヤル 0120-791-211
受付／9:30～17:00（土・日・祝日は休み）

クルーズの詳しいパンフレットをご用意
資料請求専用フリーダイヤル（音
フリーダイヤル 0120-
ホームページからも資料請求できます http://w

にっぽん丸は、米国公衆衛生局（USPH）による船舶衛生検査において4年連続で、日本船最高得点を獲得いたしました。

…しております。どうぞご請求ください。
…自動対応）
…177-522
…www.mopas.co.jp

客室（スイートルーム）

客室（デラックスルーム）

客室（ステートルーム）

（イメージ）

（イメージ）

（イメージ）

感動の航海をお約束する【にっぽん丸】クルーズ

詳しいパンフレットをご用意しております。どうぞご請求ください。

にっぽん丸2年ぶりの大航海は、初めてのオセアニアクルーズ

オセアニア エクセレント*

2005年3月21日（月・祝）～5月2日（月）全43日間
神戸／横浜／サイパン／ニューカレドニア／ニュージーランド／オーストラリア／バラオ／神戸／横浜

1,700,000円～（ステートルームC（2名1室使用））
5,600,000円（スイートルーム（2名1室使用））

初めての方でも参加しやすい"週末の一晩だけのクルーズ"

秋のワンナイトクルーズ

2004年10月22日（金）～10月23日（土）2日間
横浜／横浜

36,000円～142,000円
グループ3（ステートルームB:3名1室使用）　スイートルーム（2名1室使用）

人も風土も温かい奄美大島と世界遺産の屋久島へ

秋の奄美大島・屋久島クルーズ**

2004年10月24日（日）～10月28日（木）5日間
神戸／奄美大島／屋久島／神戸

164,000円～568,000円
グループ3（ステートルームB:3名1室使用）　スイートルーム（2名1室使用）

優雅に味わう紅葉シーズンの日本列島と韓国

秋の日本一周クルーズ*

2004年11月6日（土）～11月20日（土）15日間
東京／室蘭／舞鶴／釜山／境港／門司／与論／伊予三島／神戸／横浜

306,000円～2,016,000円
Dコース：グループ3（ステートルームB:3名1室使用）　Aコース：スイートルーム（2名1室使用）
※各種コース、国内・海外プラン選べます。

伊勢志摩と瀬戸内海の晩秋

紅葉の伊勢路と小豆島クルーズ

2004年11月21日（日）～11月24日（水）4日間
横浜／鳥羽／小豆島／横浜

120,000円～458,000円
グループ3（ステートルームB:3名1室使用）　スイートルーム（2名1室使用）

名湯のまちへは無料専用シャトルバス。安芸の宮島へは無料専用ボートで

湯布院と安芸の宮島クルーズ

2004年11月25日（木）～11月28日（日）4日間
名古屋／別府／広島／名古屋

126,000円～458,000円
グループ3（ステートルームB:3名1室使用）　スイートルーム（2名1室使用）

クリスマス期間だけの特別クルーズ。船内はクリスマス一色。

サンタクルーズ —12月各地にて—

1泊2日　名古屋Ⓐ・12月16日、名古屋Ⓑ・12月19日、横浜・12月21日、光の街 横浜／神戸・12月22日
32,000円～152,000円
名古屋Ⓐ：グループ3（ステートルームB:3名1室使用）　光の街 横浜／神戸：スイートルーム（2名1室使用）

2泊3日　伊豆諸島／駿河湾周遊・12月13日、四日市／横浜／四日市・12月17日、瀬戸内海周遊・12月24日
78,000円～298,000円
グループ3（ステートルームB:3名1室使用）　スイートルーム（2名1室使用）

にっぽん丸船上から堪能する、悠久の中国大陸。

上海・長江クルーズ

2004年11月29日（月）～12月9日（木）11日間
横浜／博多／南京／上海／門司／横浜

174,000円～1,420,000円
Bコース：グループ3（ステートルームB:3名1室使用）　Aコース：スイートルーム（2名1室使用）

南の島へ向う船上で過ごす年末年始

ニューイヤー グアム・サイパンクルーズ

2004年12月27日（月）～2005年1月5日（水）10日間
神戸／横浜／グアム／サイパン／横浜

346,000円～1,220,000円
Bコース：グループ3（ステートルームB:3名1室使用）　Aコース：スイートルーム（2名1室使用）

※最少催行人員：各コース2名　※表示の代金は大人お一人様（国内クルーズは消費税込）の旅行代金です。
※詳しい旅行条件を説明したものをお渡ししていますので、事前にご確認の上、お申し込みください。
※添乗員は同行しませんが船内ではスタッフがお世話します。
※*早期申込割引代金を表示しています。　**熟年割引代金を表示しています。

旅も楽しめる合宿にしたい。

急に1週間の全国出張になった。

ひとりひとりに、満点旅行。

ONE to ONE

家族水入らずで楽しめるプランを。

北から南まで温泉三昧したい。

商品力、サービス力、情報力、3つのパワーで、
あなたの旅をさらに快適に。

どんな旅でも、東急観光はすべてのお客様に満足していただきたいと願っています。そのために、オリジナル旅行や団体旅行など、多彩な商品をご用意。IT活用による最新情報入手から24時間予約まで、リアルタイムな体制でお応えします。そして旅を熟知した私たちのひとりひとりが、お客様の旅を親身になって考えます。

東急観光

国土交通大臣登録旅行業第38号
日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
http://www.tokyukanko.com
http://tour.tokyu.com

マクロコズム 2004年7月号 通巻五十九号隔月発行 定価一九八円（本体一八九円） 編集協力：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）日本青年国際交流機構